

いちかわ新聞

徳明光企画 〒272-0143 市川市相之川3-2-13 TEL 047-396-2211 FAX 047-397-0325
 (社)日本A.B.C協会会員/日本生活情報紙協会加盟/日本ポストヤング協同組合組合員



仏画は仏教を知るための入口

精密な線と繊彩色で描かれた仏画は、見るものに圧倒する。仏画を通して、一人でも多くの人が仏教に触れてほしいという願いのもと、仏画鑑賞会を開く赤塚さんが語る仏画の世界とは。

「仏画は、絵であるが「仏様」である。木で彫つた仏像を拝むように、仏画も拝むための一つの仏具。だと赤塚さんは言う。

仏画には、曼荼羅のように多くの仏様が描かれたり、一人の仏様のみを描いたものまでさまざま。それらはすべてお経の中の仏教の世界を絵で表したもので、文字だと分りにくいことも、絵にすることでわかりやすくする。

「年ほどどんな物を持つてゐるのか、どんな格好をしているのか、お経に書いてあるのだからこそ、丁寧に、忠実に描かなければなりません。仏画は単なる絵ではなく、それが仏様なのです」と言うものの、赤塚さんは「きれいだか描いてみたい」という気持ち

仏画との出会い

「そんな赤塚さんが仏画に出合ったのが、種智院大学三年生のときのことで、友が描いた仏画を見て、これなら自分でも描けそうだ」と授業を受けたのがきっかけだ。

「徳蔵寺の息子として生まれ、跡を継ぐ

ものと思つてはいたものの、当時は仏教に興味が高かつたわけはなかった。ましてや美術とは無縁。それが、お経の世界を絵で表した仏画に出合ったことで「仏教を知るとは楽しい」と思うようになる。

「仏教の理屈が分かりかけてきた」といつか興奮して「しょうか」と当時を振り返る。

大学の教授でもあった、京都真經寺仏壇場の中村幸民氏のもとに、授業以外で通い、仏画の世界を学んだ。

種智院大学卒業後、一年間研究生として京都に残つたあと、大正大学大学院を志し、市川市に戻つてと、二十四歳でよみかろカルチャー京葉の仏教教室を担当、学生との二足のわらじらしい毎だった。

仏画をきっかけに 仏教に触れてほしい

教室では

「それから十六年間、伝統的な技法に基づき、平安・鎌倉時代の仏画を基本に、現在は徳蔵寺境内の一角にある教室で指導にあつている。赤塚さんが大切にしているのは、お経に基いた仏画。『最近はお寺の仏画も増え、開講して描かれてくるもの目につきます』」

「東京は市川はもとより、生徒は、千葉や友麻奈から年齢をさまざまな男女が通つてくる。まずは、基本の線描きから、墨すり、一本一本の線の特徴を捉えながら筆を運ぶ。その後、金泥描き、段階の色の濃淡をつける筆細（ぶんじょ）(彩)などの基礎を学び、基本的な仏画制作へ。『焦らずゆっくりと確実に技術をマスターすること

が必要」という。いきなり魚鮮やかな仏画を描くとは難しい。しかし、生徒のなかには「ご主人の法要のときに使いたい」と、仏画をコピーと制作する人もいます。うた。研鑽を続けられ、いつか自分自身の仏画を描くことができるのかもしれない。



高麗仏画 楊柳観音

profile

種智院大学仏教学部卒業。大正大学大学院博士課程単位取得満期退学。国際仏教学大学院大学仏教学研究科で博士(文学)の学位を取得。現在、国際仏教学大学院大学日本古写経研究所特任研究員。徳蔵寺副住僧。同寺にて仏画教室を主宰。

行徳不動尊 関東山徳蔵寺 副住僧
 仏画教室主宰
 赤塚 祐道さん